☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『おいしい水』

原田　マハ／著（岩波書店）

NO IMAGE

　原田マハを読み進めているうちに思いがけず出会ってしまった。まず、画家の名前に反応してしまった。伊庭靖子さん。国内外で高い評価を得ている彼女は近江八幡と縁が深い。祖父の伊庭伝次郎氏は仁科会会友の画家で、江頭町の出身である。

　この本は、震災前の神戸が舞台。メールも携帯もない時代、謎の多いカメラマンに恋した19歳の私の切ないラブストーリー。作品自体が光を纏っているように感じるのは、透明感あふれる絵と、柔らかな文章のなせる技か。

　作中のドアノーやアジェ、ロバート・フランク等の写真集にも興味をそそられてしまう。たった85頁の短編が忘れられなくなってしまうのは、作家であり、キュレーターである作者の仕掛けに、すっかりはまってしまったからだ。

　誰もが通り過ぎたあの頃が、切なく蘇る一冊。（奥村）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『がんと闘った科学者の記録』

戸塚　洋二／著（文藝春秋）

NO IMAGE

がん闘病記は数多く出版されていますが、その中でもこの本は異色です。著者は1998年に世界で初めて素粒子ニュートリノに質量があることを発見し、「ノーベル賞に一番近い男」と言われていましたが、惜しくも2008年にがんで亡くなりました。本書はその死まで書き続けた2年間のブログをまとめたものです。

何が異色かというと、自分のがん細胞の変化を克明にデータ化し、幻覚までも記録してしまうところです。死を目前にしてもなお、科学者の目で自分の体に巣食う病を見極めようとする、戸塚さんの科学者魂が感じられ、この本は私にとって大切な本となりました。今年、梶田隆章氏がノーベル物理学賞を受賞した際、大先輩として戸塚さんの名前を挙げられ、また読み直す機会ができてうれしかった！理系が苦手な方にもぜひ出会って欲しい1冊です。（世古）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『くりぃむパン』

濱野　京子／著（くもん出版）

NO IMAGE

　私はパンが大好きです。この本を見た時、美味しそうなタイトルと、かわいらしいイラストにひかれて思わず手に取ってしまいました。

　このお話は、大家族で暮らす小学四年生の香里（かおり）と全く違う環境で育った同学年の未果、二人の女の子が一緒に暮らすところから始まります。

　最初、香里は、みんなから優しくされている未果に良い印象を持ちませんでした。そんな二人が大家族ならではの魔法とクリームパンのおかげで友情を深めていきます。

　読んでいるうちに私も小学4年生の頃、友達とうまくいかなかった時のことを思い出しました。

　あらためて「家族」や「友情」の大切さ感じさせてもらった一冊でした。ぜひ、読んでみてください。（西川）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『イニシエーション・ラブ』

乾　くるみ／著（文藝春秋）

NO IMAGE

　マユと知り合ったのは合コンだった。やがて僕らは付き合い始めた。

　デートを重ねるたび、マユのいろいろな一面を知り、会えば会うほど好きになっていく。そんな甘い恋愛小説のはずが、最後の二行でがらりと変わる。

　ただの恋愛小説ではなく、ラストはミステリーというスパイスを加えた二面性を兼ね備えたストーリーとなっている。

　甘い感じで読む一回目、ラストを知った上で読む二回目以降、物語の楽しみ方は多々ある。文章中にある伏線探しも面白い。映画化されたこの作品、小説と映画で異なるラストということもあり、どちらも楽しめる。

　普通の恋愛小説に刺激がほしい方、本をたくさん読む方、あまり小説を読まない方にも是非手に取ってほしい一冊である。（永屋）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『銀の街から』

沢木　耕太郎／著（朝日新聞出版社）

NO IMAGE

　ノンフィクション作家の沢木耕太郎氏が、新聞に連載した映画評のコラム15年分の書籍化第一弾です。

　この本の魅力は、沢木氏の書く文章そのものです。氏が面白いと思った世界各国の作品を、どのような点が面白かったかに焦点をあて書かれており、ストーリーに踏み込んだ記述があっても決して語りすぎることなく、自分の目で観てみたいと思わせられます。

　イスラエルの『迷子の警察音楽隊』という映画の紹介に、―この映画は、人は互いに理解できるはずだなどとは語らない。（中略）理解できないということを当然のこととして受け入れることによって、ほんのわずかな共感が生まれるかもしれないと言っているのだ―という一文があり、沢木氏の映画評に魅力を感じるようになりました。

　第二弾の『銀の森へ』も併せてどうぞ。（荒川）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ 』

くさば　よしみ／編　　中川　学／絵（汐文社）

NO IMAGE

　私がムヒカ大統領を初めて知ったのは、本ではなくテレビ放送でした。その後、「あっ！あのテレビの人！」と手にしたのがこの本との出会いです。物があふれる、豊かな国に生まれた私たち。毎日忙しく働き、欲しいものを買っても何か満たされない。

　もっと豊かに、もっと快適に、ワンランク上の生活を求めて、日々頑張っています。もちろん、それが悪いわけではないけれど、毎日の生活や「本当の幸せ」についてすこし立ち止まって考えさせられました。

　自分がこれからどう生きるのか。子として、母として、社会の一員として…。ムヒカ大統領の言葉がそれぞれの立場で形を変えて響きます。

　本書は、大統領のスピーチを子どもにも分かりやすく書いた絵本ですが、大人も読みごたえのある一冊です。（澤）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『晴れてよし、降ってよし、いまを生きる』

佛光寺／著　（学研ﾊﾟﾌﾞﾘｯｼﾝｸﾞ）

NO IMAGE

京都市下京区の高辻通りにある「佛光寺」の門前に、仏さまの教えを分かり易く伝えることを目的として月替わりで掲げられている「八行標語」があります。30代から60代の男女8人の僧侶が意見を出し合い決めているそうです。通りがかりの人が、標語の写真を撮り、ツイッターでつぶやいたところ大反響となり、この本が出版されました。本書では、厳選された過去の標語66篇が、京都の何気ない日常風景の写真と共に紹介されています。日々の生活の中で、誰しも様々な悩みや不安を抱え、心が折れそうになることや迷いが生じることがあります。そんな時は、ぜひこの本を開いてみて下さい。どのページにも生きるヒントが示されています。心にしみる言葉の数々に、ハッと気づかされたり、救われたり・・・改めて自分自身と向き合うことが出来る一冊です。（辻）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『ある一日』

いしい　しんじ／著　（新潮社）

NO IMAGE

　この本は、京都に住む40代の著者と奥さんの出産をもとにした実話の物語です。

　予定日を迎えた園子さんと慎二は、いよいよその時を迎えます。

　出産に立ち合った慎二は、生まれてくる赤ちゃんを「いきもの」と表現し、様々な想いをめぐらせます。

　この作品の魅力は、夫の視点から出産の一日を描いているというユニークさ、そして　この作品の最後を飾る園子さんのバースプランにあります。プランを読むと、二人が悲しみを乗り越え、心から生まれてくる赤ちゃんを待ち望んでいるということを知ることができ、心を打たれました。

　数年前、当館の講演会でお二人をお迎えしました。温かいお人柄のご夫婦と、お二人が愛するちいさな息子さんに出会えて幸せな気持ちになりました。（伊藤）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『外郎売（ういろうううり）』

長野　ヒデ子／絵　齋藤　孝／編（ほるぷ出版）

NO IMAGE

　このお話は歌舞伎の演目の一つです。江戸時代に市川團十郎が“ういろう”（透頂香）という中国伝来の薬で持病の咳が治ったことに感謝し、演じたのがはじめといわれています。

　内容は、「ういろう」という薬を売るために外郎売自身が薬を飲み、口がよくまわるという効能をたくさんの早口言葉で証明するというものです。

　一つ一つの早口言葉はテンポがよく、思わず口にしたくなるようなものばかりです。

　現在では、アナウンサーや役者などの滑舌練習にも使われています。私もスラスラ言えるようになろうと、挑戦してみるのですが、なかなか難しく、スラスラ言えるようになるには時間がかかりそうです。

　みなさんもぜひ、声に出して楽しんでください。（田原）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『神は沈黙せず』

山本　弘／著（角川書店）

NO IMAGE

　宇宙人の乗り物などの説がある未確認飛行物体、UFO。降ってくるはずのないものが空から降ってくる怪雨現象、ファフロツキーズ。

　本書では、現代科学をもってしても解明されない様々な謎が、なぜ発生するのかに迫ります。

　UFOや超常現象というと、どうしてもオカルトな内容なのではないかと感じてしまうかもしれませんが、本書では膨大な数のUFO目撃情報や怪奇現象を引き合いに出し、そこに進化論や人工知能の研究といった面からの考察が加えられることによって、世界が創造主によって創られた仮想現実なのだという説に行きつきます。

　様々な専門的知識の叙述により、全くの夢物語ともいえない説得力で展開するストーリー。あなたもこの本を読んで、世界の真の姿を感じてみてください。（村田）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『広岡ちはるのカルトナージュ　暮らしの中の布箱づくり』

広岡　ちはる（文化出版局）

NO IMAGE

　カルトナージュに興味をもったのは、ある本に載っていたアンティークの美しい布箱でした。

　カルトナージュはヨーロッパで中世から続く伝統のある製本技術から派生した手工芸で、木や厚紙で組み立てた箱に布を貼って作ります。

　それから毎日、ほんの少しの資料をたよりに息子を寝かしてから厚紙とカッターとの悪戦苦闘の日々が始まりました。でもなかなか箱が組み立てられず失敗ばかり…

　無理かな！？あきらめかけた時、この本を見つけたのです。広岡さんの愛用の道具と材料、私の知りたかった布箱作りのコツと工夫がたくさん載っていて、不思議なくらいスムーズに箱が仕上がっていきました。

　大切な箱が、きれいな箱になる！感動でした。ぜひ皆さんもこの世界をのぞいてみて下さい。（轟）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『彩雲国物語』 全23巻

雪乃　紗衣／著 （角川書店）

NO IMAGE

　この本は、ティーン向けの本です。表紙は勿論、中にも素敵なイラストが満載ですが、これをティーンにだけに読ませるのはもったいないのです。若くして王位についたダメダメ王様の下に貴妃として1年間入るという仕事を、高額のアルバイト代に目がくらんで引き受けたのが、超名門のお嬢様なのに超貧乏育ちな秀麗。王様を筆頭にイケメンがいっぱい。おじさま世代にもイケメンが揃っていて･･･ここまでは軽い読み物です。

　でもこれでは終わりません。その後秀麗は、妃としてではなく、王の官吏として王を支える道を選びます。それは男社会の中でがんばっていくということであります。王もまた迷いながら王としの道を歩き始めます。

　全23巻大河ドラマのような壮大な物語になっていきます。

（松宮）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『本で床は抜けるのか』

西牟田　靖／著（本の雑誌社）

NO IMAGE

本に限らず、何かを集めている人は多いのではないでしょうか。そんなコレクターの方にもおすすめです。

筆者が引っ越しを機に床抜けの不安にかられたところから、この本は始まります。実際に床が抜けた人、私設図書館を作った人、電子化した人、手放した人、本人が亡くなった後に家族で大変な目に遭った人、様々な人への取材の果てに、筆者はどういった決断をくだしたでしょうか。

私はこの本を読んで、人と本との関わり方は本当に人それぞれだと思いました。人と本とが気持ちよく共存出来るように、距離を測りながら付き合うところは人間関係にも通じるところがあると思います。最終章で筆者の身に起こった事を考えると、家族も巻き込むこの問題は、とてもひとごとは思えませんでした。（三井）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『ナックの声が聞きたくて！』

村山　司／著（講談社）

NO IMAGE

　著者は高校生の時、一本の映画がきっかけで「イルカと話をしたい」という夢をもつようになった。

　著者のパートナーであるシロイルカ、ナックは気の強いところもあり、ヒトに媚びようとせず、いつもすました顔をしているが、実験となると一変し、頭の回転が早く記憶力も抜群のイルカである。

　実験はマスクやバケツといった見慣れたものを使って始まった。それを表す記号を覚えさせる。また、ものの名前を「音」で呼び、ものと音とを結びつける実験を行った。そして、ヒトの声を真似させ、ついに「ツゥ、カァ、サッ！」（著者の名）と話させることに成功する。

　二十年以上、試行錯誤を繰り返しながらも夢に向かってあきらめず努力し続ける著者の熱い思いが伝わってくる。

（寺崎）

☆★☆　司書のイチオシ！　☆★☆

『シカゴよりこわい町』

リチャード・ペック／著（東京創元社）

NO IMAGE

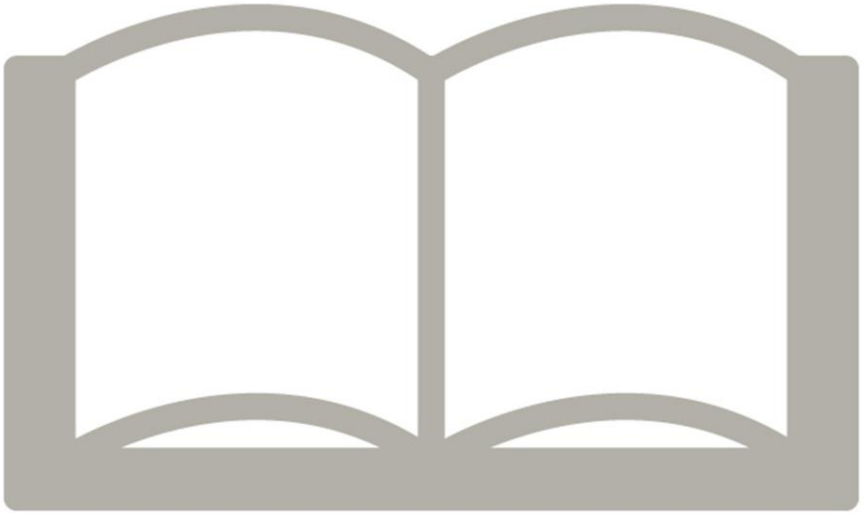
　舞台は1930年代のアメリカです。シカゴに住む兄妹ジョーイとメアリ・アリスは、毎年夏休みになると、おばあちゃんのいる田舎町にやってきます。

　普通、「おばあちゃん」と言えば、分別があって優しい人の代名詞ですが、本書に登場するのは、無愛で、時には平気で嘘をつくし、銃をぶっ放す、破天荒なおばあちゃん。けれど、曲がったことが大嫌いで、いつも彼女なりのやり方で正義を貫きます。近所の悪ガキを懲らしめたり、町の保安官を出し抜いて密漁したり、はたまた駆け落ちする若者たちを手助けしたり・・・そのやり方は決して褒められたものではありませんが、いつも真剣勝負で、どんな相手とも堂々わたりあう姿はなんとも格好よく、且つ爽快です。

　本書は児童文学ですが、おばあちゃんの生き方に魅了されるのは大人の読者こそかもしれません。（但田）

司書オススメ図書あんない

市立図書館の本棚から
選りすぐりの一冊をご紹介します



2015年11月1日発行

近江八幡市立図書館